



KAHF ニュースレター

〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥居町 2-2 京都市国際交流会館 3階

財団法人 京都国際文化協会内

京都ホストファミリー協会 (KAHF)

No.21

2022年 3月発行

2022 年度 行事予定

4月17日(日)
ウェルカムパーティー

5月
春のハイキング

6月
料理教室

10月
大原バーベキュー

11月
秋のハイキング

2023年1月
新春親睦パーティー

2月
凧揚げ大会

3月
総会・会員の集い

祖母が西先生にお誘いいただき KAHF に参加して 35 年ほど。今では息子、娘の代で 4 世代目となった我が家です。それからずっと 25 名以上の方とご一緒させていただきました。彼らの家族も含めると相当な数。一年以内で去る人もあれば、家族ができ日本に定住しておられる方も。もちろんたくさん思い出があります。

小さなキッチンと 6 畳間に 3 人で暮らしていた留学生は、私たち家族 7 人を彼らの家へ招待してくれたことがあります。風呂桶いっぱい盛られた野菜料理に、味そのものより風呂桶に目が釘付けに。またある時は、引っ越しを手伝い落ち着いた頃を見計らい連絡してみると消息不明になっていたり。祇園祭の待ち合わせ場所にこられたのに、銚子からレストランまでの移動中に迷子になり、そのまま連絡なく家に帰ってしまわれことも。数えればキリがないほど、私たちの常識や習慣をひょいと越えていく行動に驚くことばかり。そんなときに笑えるかどうか、興味深いと思えるか、そんなところが異文化交流のポイントになるとつくづく思います。

さて、ここ数年コロナ感染でディスタンス（距離）、分断という言葉をよく聞くようになりました。国際関係は不安定な中、今、私たちにできることはなんでしょう？南米のお話には「ハチドリのお話」というのがあります。森の火事に一滴ずつ雫を運ぶハチドリ、役に立たないと周りから笑われるのですが、ハチドリは「私には私にできることをしているだけ」と答えます。そんなハチドリの一滴の雫が、KAHF の活動と重なります。草の根の小さな集まりが多数存在することの重要性を改めて考えさせられます。

たとえ物理的な距離があっても相手を思う気持ち、違いを認め合う、分断もディスタンスも軽く越えられる交流、そんな KAHF を運営してくださっている方々に感謝いたします。そして細々とですが、そのメンバーでいられることがとても嬉しいです。これからもどうぞよろしくお願いします。（奥田朝夏）

2021 年度会務報告

2021 年度に 5 名の新しい留学生 (No. 2163~2167) を受け入れて、HF をマッチングしました。新しい留学生が少なかったのは、新型コロナウイルス禍およびそれに対する外国人の入国禁止措置のために来日した学生が少なかったためでした。

残念ながら 2021 年度に新たな HF 会員の入会はありませんでした。一方 8 名の会員が退会されました。これまでのご協力に感謝します。この結果、現在活動中の HF 会員は 86 ファミリーとなりました。

2021 年度に Brother/Sister (B/S) プロジェクトへの新規登録はありませんでした。B/S 会員は卒業・就職などで自然退会も多く、現在の活動会員は 10 名程度です。

KAHF の活動は HF および B/S と留学生の 1:1 の交流が中心です。この 1 年間各 HF は工夫を凝らして新型コロナウイルス感染の予防措置を工夫して交流をしました。予定した全体での行事は殆どキャンセルせざるを得ず、実施できたのは少しコロナ禍の落ち着いた 11 月 4 日 (日) の秋のハイキング、2022 年 1 月 16 日 (日) の大文字初春ハイキング、および 2 月 5 日 (土) の淀の河津桜花見のみでした。

行事報告 2021 年 3 月 ~ 2022 年 3 月

植物園内外の軽い散策 2021 年 11 月 14 日 (日) 11:00 -

コロナ禍のために永らく活動が制限されていましたが、やっと 1 日の感染者が 200 人程度に下がってきたので、戸外での軽い散策を計画しました。行動の自粛を強いられていた会員がファミリー 17 名、留学生 8 名が参加しました。11 時に植物園の北東門に集合し、少し散策の後大芝生で各自持参の弁当で食事、その後丁度開催されていた菊花展を見て、紅葉の美しい植物園内部の散策、その後すぐ隣の陶板名画の庭へも足を延ばしました。よいお天気に恵まれて、気持ちの良い一日でした。



KAHF 大文字山 初春ハイキング 2022 年1月16日(日)

今冬の寒さ、雪によるスリップ事故、また当日開催の全国女子駅伝の交通への影響等心配しましたが、期待通りの絶好の日和になりました。1月16日(日)1時に銀閣寺前に18名(学生8名)が集まり、火床に無事到着、殆どの方が頂上三角点を登り切り4時前に集合場所へ戻ることが出来ました。

いつものように留学生はファミリーとも言葉を交わし談笑しながらのハイキングでしたが、初参加の留学生は山登りは初めてで非常に疲れたが火床、頂上からの景色は最高です、と喜んでいたので印象的でした。



淀 河津桜並木の散歩 2022 年3月5日(土)

3月5日午後1時京阪淀駅バスロータリーに集合し、最近注目を浴びている淀駅近くの河津桜並木の散歩を行った。早春とはいえ気温16度の温かい日であった。留学生3名、日本人学生2名、HF8名の参加であった。満開を期待していたが、まだ三分咲き、それでも満開の木もところどころありピンク色の花が可憐で美しく、桜と一緒に写真を撮りあい写真を送信しあっていた。新しくカーブに入った留学生や日本での就職が決まった学生もいて話題に尽きず、花より談義で話を弾ませ、帰り際には次回の再会を約束しあった。淀駅に戻ってから近くの淀城址に足を延ばし石垣を見ながら歴史に思いをはせました。



留学生と交流して

豊永やす

子供たちが家庭を持ち、また長年の家族の介護を終えて私の人生でひと息ついたのが今から10年前でした。そんなある日、カルチャーで一緒の先輩からKAHFの入会を勧められ阪田さんに繋いでいただきました。外国の旅や文化には興味はあるものの、一人暮らしでファミリーとしてどのように付き合いをしていくのか不安ながらウェルカムパーティーに参加しました。

初めての留学生は友人同士、中国からの女子留学生2人でした。大学卒業後中国で1年間勉強しただけなのに日本語が上手で、食事をしながらほどなく話が弾みました。豊永さんはどうして働かないんですか？えっ！となりました。彼女たちにとってお母さんも働いているのは当たり前のことです。弁解がましく私の年代が経た日本の高度成長時代の働き方や女性の社会進出困難、家族観、さらには年金の話まですることになりました。

後の話ですが、他の留学生たちも不思議らしく、日本に来て専業主婦という言葉を知ったようです。そういえば留学生の彼女たちのお母さんは年

代が若いですが、皆働いていて、お母さんが単身赴任でお父さんと暮らしていたとか、医者のお母さんに代わってお父さんが子供の成長に合わせ臨機応変に仕事をしてきたとかの話です。

このようなことから、つまりは自分の考えを素直に話し合えればいいんだと肩の荷が軽く感じました。彼女たちは才媛ですが、我が家ではふつうの女の子として、いろいろなことを喋って、気さくに接することにしました。我が家での食事会の時は、一人でのもてなしは大変なので、出来るだけ複数の留学生を招き、折には孫たち、私の友人を誘ったりしてまさに茶の間の付き合いです。故郷の家族や学生時代の話、現先生のエピソード、将来の話、旅行の話、美容の話までの女子会です。はてはその国々の老後の話まで聞き出しました。もちろん食べ物の話も豊富です。一緒に料理を手伝ってくれ、またお国の手製の料理を持参してくれて食卓が賑わいました（その都度料理の写真は撮られるのでやや気疲れでしたが）。



現在はベトナムの留学生の彼女と、卒業後日本で結婚したフィリピンの彼女との付き合いが続いていますが思いやりのある彼女たちです。

彼女たちとの交流を通しての私の幸せは、彼女たちの心に思い出として残っているかなと想像することです。実際に、初めての中国の留学生は日本で就職し同じ留学生の先輩と結婚、こどもさんを連れて訪ねて来てくれました。台湾の留学生

には、孫娘と旅行に行った時ご両親と共に歓待してくれました。昨年彼女は結婚し、今年の秋の披露宴の招待を受けています。

KAHF が設立されて 37 年、私のこの 10 年間の活動は主にささやかな茶の間の付き合いですが KAHF の理念の一端を担えていれば幸いです。何よりも、思いがけぬ大勢の留学生との付き合いが、私の一人暮らしの生活に彩りをつけ加えていただいたこと、KAHF にとても感謝しています。

寄稿 ②

Two days and One night

高橋幸子

コロナ禍で、カーフの活動もほぼ休止状態です。そんな中、留学生から電話です。彼女の息子 Farid が通う学校がコロナのため休校になったとのこと。運悪く彼女の卒論プレゼンテーションと重なり、子供を連れていくことができない、預かってくれるご近所さん、友達もいないと、。。。。

私も持病もあり高齢（自覚はありませんが）で、まだそのとき 3 回目のワクチンは打っていませんでした。色んなリスクを考えて Farid に検査を受けてもらい陰性だったら預かることにしました。それから検査機関に電話を入れ、本人に知らせました。2 日後検査結果は陰性。

プレゼンの前日と当日の 1 泊 2 日の Farid の初めてのお泊りです。私も預かるには、無理をせず楽しまなくてはと色々考えました。一番困るのは、夜寂しくなってママのところへ帰るといった時です。とにかく、そうならないように昼間体を動かすことを考えました。一緒に何したい？と聞くと、おばあちゃんと一緒に遊びたいと。遊ぶとい

っても体力が持ちません。考えるより何とかなるだろう。やってみるしかない。買い物に行ったり、公園に行ったり、ゲームしたり、食事の準備も一緒にしました。ママと 3 人で会っているときはわがママが出ていましたが、ママと離れているので彼なりに我慢しているんだと思いました。

お風呂は入りたくないと言っていましたが無理やり入れました。一緒に入ろうと言いましたが 1 人で入ると、。。。。体を洗ってシャンプーをしてやり、湯舟につかり 1 人でも大丈夫というので、上がる時は声をかけるように言って離れました。なかなか、声がかからないので、心配で浴室に行ってみると泡だらけ。こりゃ大変だあ。本人はケロッとお風呂は楽しいね。と、これじゃ、おばあちゃんは入れないからお風呂の掃除をしよう。と一緒にたわしでゴシゴシ。シャワーで泡だらけの Farid の体を流しました。翌朝もお風呂にまた入りたいと気に入ったようです。

2 日目は朝から近くの流れ橋へ。ウサギと亀ゲームをしながら歩いて、歩いて。よく歩きました。川原では石を運んで文字を書き、私になんという字かあててと。大きな石は危ないので、声をかけながら私は橋の上からじっと見ながら写真を撮っていました。犬という文字の出来上がりです。写真を見せるとママに見せるから、Farid が一生懸命石を運んで書きましたと英語で書いてほしいと。おばあちゃんは、慣れない写真の文字入れのやり方を検索しながら頑張りました。お昼には細巻きずしを一緒に作り食べました。できないか

と思いきや、うまくやりとげママのお土産にもなりました。

ママからの電話が鳴るとまだ遊ぼうと言っていたのに、さっさと帰り支度をはじめ、準備できた一。ともう帰るモードです。丸太町の駅でママの顔を見ると、ママ大好きと飛びつきました。そして私のほうを見て悪いと思ったのか、私にもおばあちゃん大好きと、、、。かわいいものです。

我が家には孫はいませんが、ばあばと孫 Farid の1泊2日のお泊りは私にとってとてもうれしい体験でした。 Farid ありがとう。



平素、KAHFの活動にご尽力頂き、有難うございます。2021年度は2年間続いたコロナ禍のために全体での行事は殆ど自粛せざるを得ませんでした。留学生の来日も激減し、KAHFへの新規申し込みは5名だけでした。これまでマッチング済の留学生との交流にも感染を防ぐためのHFには工夫を凝らしての努力をしていただいたと思います。With coronaでの留学生との交流を根本的に考えないといけないかも知れません。今年度の活動をまとめたニュースレターを作成しましたので、どうぞお受け取り下さい。なお、ニュースレターはホームページでもご覧いただけます。行事予告などはホームページやフェースブックでも行っています。

ホームページ URL : <http://kahf.web.fc2.com/>

フェースブック グループ名 : KAHF (Kyoto Association of Host Families)